

令和2年2月18日

出雲市議会議長 様

会 派 名 \_\_\_\_\_

代表者氏名 板倉 一郎



視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 2年2月19日 ~ 令和 2年2月19日 (1日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	国土交通省 参議院議員会館	新幹線整備促進議員連盟による中央要望活動 ・ 青木一彦国土交通副大臣要望面会 ・ 西田昌司参議院議員要望面会 他 国会議員に要望面会
3. 参加者	板倉 一郎  計1名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



## 新幹線要望活動行程表 伯備新幹線整備推進会議

	時 間	場 所	内 容	備 考
2月 19日 (水)	-0850	出雲縁結び空港	各自移動（松江、出雲市）	JALカウンター前集合
	-0855	米子鬼太郎空港	各自移動（米子市）	ANAカウンター前集合
	0930-1045	出雲AP→羽田AP	空路移動（松江、出雲市）	JAL278便
	0925-1050	米子AP→羽田AP	空路移動（米子市）	ANA383便
		羽田AP→浜松町	モノレール移動	
		浜松町→国交省	タクシー移動	
	1200-1300	国土交通省食堂	昼食	
	1330-1345	合同庁舎3号館	青木国土交通副大臣要望面会	
		国交省→参議院議員会館	タクシー移動	
	1500-1520	参議院議員会館	西田昌司参議院議員要望面会	1110号室
	1530-1550	〇〇院議員会館	〇〇議員要望面会	
	1600-1620	〇〇院議員会館	〇〇議員要望面会	
	1630-1650	〇〇院議員会館	〇〇議員要望面会	
		→浜松町	タクシー移動	
		浜松町→羽田AP	モノレール移動	
	1830-2000	羽田AP→出雲AP	空路移動（出雲市）	JAL287便
	2005-2130	羽田AP→米子AP	空路移動（米子市）	ANA389便
		赤坂エクセルホテル東京	宿泊（松江市）	

令和2年3月25日

出雲市議会議長 様

会 派 名 \_\_\_\_\_

代表者氏名 \_\_\_\_\_ 板倉 一郎



視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 2年2月19日 ~ 令和 2年2月19日（1日間）	
2. 視察研修先 視察研修目的	国土交通省 参議院議員会館	新幹線整備促進議員連盟による中央要望活動  ・青木一彦国土交通副大臣要望面会  ・西田昌司参議院議員要望面会  ・舞立昇治参議院議員要望面会  ・三浦靖参議院議員要望面会
3. 参加者	板倉 一郎	
4. 添付書類	1. 行程表 2. 報告書 3. 参加者名簿	



(所 感)

中海・宍道湖・大山圏域への新幹線整備促進を求めるための中央要望活動を行った。

この度の要望は、中海・宍道湖・大山圏域の5市議会に設立されている新幹線議員連盟として要望活動を行い、5市議会のうち松江市、米子市、出雲市から17名が参加した。このうち、出雲市議会の新幹線整備促進議員連盟からは4名が参加した。

中国横断新幹線は、山陰新幹線とともに昭和48年に基本計画路線として閣議決定されたものの、未だ進展が見られず、都市部との格差が生まれていると考えられる。また、中国横断新幹線で山陰と山陽がつながることは、圏域のさらなる発展と災害発生時の代替手段の確保にも大きく寄与するものであることから、以下の4点を要望した。

1. 「中国横断新幹線」及び「山陰新幹線」を次期整備計画に位置付けること。
2. 新幹線整備に係る予算総枠の拡大を図ること。
3. 整備事業費の地元負担のあり方の見直しを検討すること。
4. 並行在来線を経営分離しないために必要な措置を検討すること。

青木国土交通副大臣からは、整備計画・着工に至るまでの課題や、他の路線の状況などを伺った後に、意見交換を行った。このほか、西田参議院議員、舞立参議院議員、三浦参議院議員秘書から、活動への支援の考えを伺い、意見交換を行った。

次期整備計画に位置付けられるよう、今後も中海・宍道湖・大山圏域の5市議会で連携を取りながら、積極的な活動を行う必要性を感じた。また、気運を醸成するためにも、県・商工会議所などと連携を図っていく必要性を感じる。

## 新幹線要望活動行程表 伯備新幹線整備推進会議

	時間	場所	内容	備考
2月 19日 (水)	-0850	出雲縁結び空港	各自移動（松江、出雲市）	JALカウンター前集合
	-0855	米子鬼太郎空港	各自移動（米子市）	ANAカウンター前集合
	0930-1045	出雲AP→羽田AP	空路移動（松江、出雲市）	JAL278便
	0925-1050	米子AP→羽田AP	空路移動（米子市）	ANA383便
		羽田AP→浜松町	モノレール移動	
		浜松町→国交省	タクシー移動	
	1200-1300		昼食	
	1330-1345	合同庁舎3号館	青木国土交通副大臣要望面会	1300国土交通省守衛室前集合
		国交省→参議院議員会館	タクシー移動	
	1410-1415	参議院議員会館	青木一彦参議院銀事務所訪問	814号室、佐々木秘書
	1420-1430	参議院議員会館	三浦 靖参議院議員要望面会	811号室、事務所対応
	1440-1450	参議院議員会館	舞立昇治参議院議員要望面会	603号室、本人対応
	1500-1520	参議院議員会館	西田昌司参議院議員要望面会	1110号室、本人対応
		→浜松町	タクシー移動	
		浜松町→羽田AP	モノレール移動	
	1830-2000	羽田AP→出雲AP	空路移動（出雲市）	JAL287便
	2005-2130	羽田AP→米子AP	空路移動（米子市）	ANA389便
		赤坂エクセルホテル東京	宿泊（松江市）	

令和元年 11月 11日

出雲市議会議長 様

会 派 名 \_\_\_\_\_

代表者氏名 \_\_\_\_\_ 板倉 一郎 

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和元年 11月 18日 ~ 令和元年 11月 20日 (3日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	11月18日 釧路市  19日 北広島市 むらかみ牧場  20日 札幌 ホクレングループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住・長期滞在事業について 出雲市でも同等の事業を行っていたが、利用者が無く、担当者が苦慮している。PRの方法や運用についてのノウハウを学びたい。</li> <li>・牧場の一部を開放して来園者に牧場作業の体験等を提供している。 牧場のICT化の現状と牧場体験などが出雲市で観光化できないか検討したい。</li> <li>・北海道ではホクレングループがJAなどと協同して営農支援などを行っている。 儲かる農業を目指して、ホクレングループの営農に対する、JAと生産者の関係を調査したい。</li> </ul>
3. 参加者	板倉一郎  計 1名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



令和 2年3月25日

出雲市議会議長 様

会 派 名 \_\_\_\_\_

代表者氏名 \_\_\_\_\_ 板倉 一郎



視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 元年 11月 18日 ～令和 元年 11月 20日（3日間）	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	11月18日 15:00～ 釧路市役所  11月19日 13:30～ 恵庭市 むらかみ牧場  11月20日 13:00～ 札幌 ホクレングループ本社	・移住・長期滞在事業について  ・牧場経営の現状、儲かる酪農について  ・ホクレンとJA、生産者の関係  ・儲かる農業について
3. 参 加 者	板倉 一郎	
4. 添 付 書 類	1. 報告書	



(所 感)

### 釧路市役所

総合政策部 市民協働推進課の担当者より、移住・長期滞在事業の取り組みについて説明を受けました。

〈官民連携〉定住人口増加策として、空き家などの物件の情報をきちんと伝え、長期滞在者の動機などの把握を行いうため、不動産、観光、ホテル・旅館業者と連携して、長期滞在促進を目的に「長期滞在に伴う住宅情報当研究会」、「涼しくしろで避暑生活ホテル・旅館部会」を創立した。

PR を強化してさらに移住・長期滞在を促進するために、平成 21 年に「くしろ長期滞在ビジネス研究会」を設立し、長期滞在ビジネスの事業化と地域経済の活性化を目的とした。それまで、市が民間企業の情報を伝えることに問題があったが、市もメンバーとなり、情報提供が可能となった。また、市も多種多様な企業（52 会員）からの情報が得られる様になり、まさに官民が一体となって同じ目的に向かって進むことが出来るようになった。

このような仕組みを出雲市でも取り入れることを検討することも価値があると考えます。

### 恵庭市 むらかみ牧場

牧場体験ツアーを開催して頂き、四代目 村上隆彦社長より酪農の現状について話を聞きました。

〈観光牧場〉20 年前から取材などは全て引き受けており、NHK-TV や“たかとし牧場”として知名度が上がり、他のメディアからの取材依頼も増加し、近年の来場者は年間 1 万人を超えているとのことでした。

衛生面で制約が多いために、観光牧場でも、体験型のスタイルを行っているところは少ないとのことであった。

恵庭市としては、観光に対する補助は全くなく、施設の更新は自前でおこなっていました。公共の補助に頼らず、創意工夫で黒字にしているとのことであり、出雲市でも農業を観光として事業化する場合、姿勢を参考にすべきと考えます。

〈酪農〉約 130 頭の乳牛を飼育し、牛乳の生産を行っている。合同会社（グレイスコート）の設立に参加し、恵庭市で唯一の自家製の牛乳（乳製品）が取り扱える施設とのことでした。飼料などを農協から購入すると採算が取れないために、同業者と協同して残飯や廃棄野菜などを利用した飼料を製造しているとのことでした。

酪農分野も IT 化が進み、乳牛 1 頭あたり一日に数回の搾乳が必要で、乳牛をそのエリアに誘導して搾乳機を取り付け、搾乳する作業はかなりの手間を必要とし、酪農業者の大きな負担となっている。餌の時間に合わせて乳牛が自身で搾乳エリアに移動し、自動で乳頭に搾乳カラムを取り付けて搾乳するロボットを導入し、牧場の経営だけで 4 千万円の収入があり、現状では後継者には困っていないとのことでした。酪農経営の実情を知ることができた。

札幌市 ホクレン農業協同組合連合会 本社

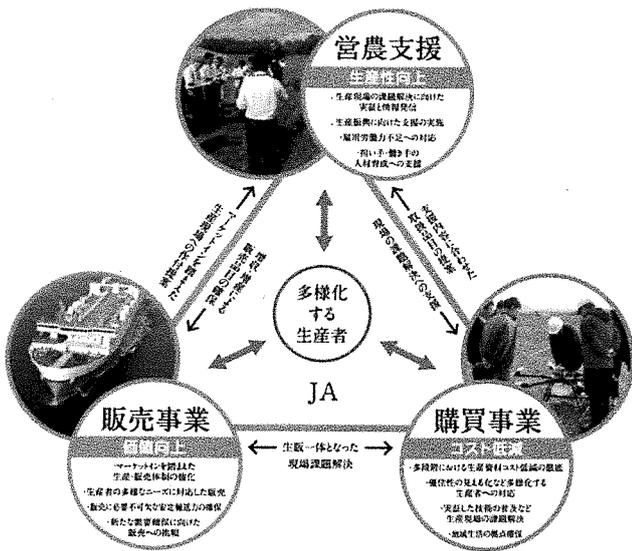
販売推進課と営農支援推進課の担当者から、組織と運営について説明を受けました。1919年に「せめて北海道の各組合の日用品並びに農産産物の共同購買販売の機関として、連合のうえ大量取引の必要となる事」との趣旨で、8信用購買組合が発起人となり設立されたとのことでした。

〈購買・販売事業〉昭和30年の豆類の大豊作時には、50万俵を棚上げにして翌年の生産調整を行うことで、危機を乗り切った。また、製糖工場を建設したり、加工乳の北海道協働乳業を設立しりして、農家の所得安定や酪農の発展に寄与してきた。平成5年には、特産品の多い北海道農畜産物を自ら販売するために、事業の合理化・効率化を図り、農協一ホクレン完結方式を基本とした事業方式を構築した。購買事業は直接購買に移行し、販売事業は道外販売の強化に取り

組んでいる。農業者同士が助けあう協同組合精神のもとに、組合員の経営と生活を守り、道産農畜産物を安定して消費者に供給することを通して、北海道農業の発展に向けた事業に取り組んでいる。

〈営農支援〉北海道の全域で見ると、酪農や水稻、麦、イモ、野菜、果樹など様々な傾向が見られる。このために全道を12か所に分けて、生産性の向上と生産基盤の強化を進め、それぞれの地域の現場を重視して運用される。

スマート農業を推進するうえで自動操舵トラクターに必要な位置情報の提供システムを運用し、技術開発の支援を行っている。また



購買・販売・営農の三位一体の事業

労働力不足に対応して、パート（週末ボランティア・バイト）募集の説明会や農福連携などの人材マッチングの推進を行っている。①生産性向上につながる技術革新、②労働力不足への対応、③人材育成による技術向上支援、④情報の収集と発信、の4つの取り組みを柱にして運営されている。

ホクレンは、むらかみ牧場の取り組みと相反し、個々の農家では難しい取り組みを大きな組織として支援をおこなっています。今後、出雲市での農業は、この二つのパターンをうまく活用することが必要と考えます。

令和 2年 1月 16日

出雲市議会議長 様

氏名 \_\_\_\_\_ 板倉 一郎 

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 2年 2月 12日 ~ 令和 2年 2月 14日 (3日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	2月13日 鹿児島市 観光農業公園  14日 熊本市 熊本大学医学部附属 病院	<ul style="list-style-type: none"><li>・鹿児島市には、観光農業公園が設置されている。この公園の視察をおこない、農業の六次産業化および出雲いりすの丘の再生の参考にする。</li><li>・地震などの大規模自然災害発生時の医療体制のあり方について視察をおこない、出雲市の災害発生時の対応の参考にする。</li></ul>
3. 参加者	板倉一郎  計 1名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



令和 2年3月25日

出雲市議会議長 様

会 派 名 \_\_\_\_\_

代表者氏名 \_\_\_\_\_ 板倉 一郎



視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 2年 2月 12日 ～令和 2年 2月 14日（3日間）	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	2月13日 10:00 ～ 鹿児島市 観光農業公園 グリーンファーム	・農業公園の運営、運用について
	2月14日 9:30 ～ 熊本大学医学部付属病院	・地震災害時の対応とその後
	14:30 ～ 中央エレベータ工業(株) 九州支店（福岡） 段差解消機 ステップリフト	・跡付け改修によるバリアフリー
3. 参 加 者	板倉 一郎	
4. 添 付 書 類	1. 報告書	

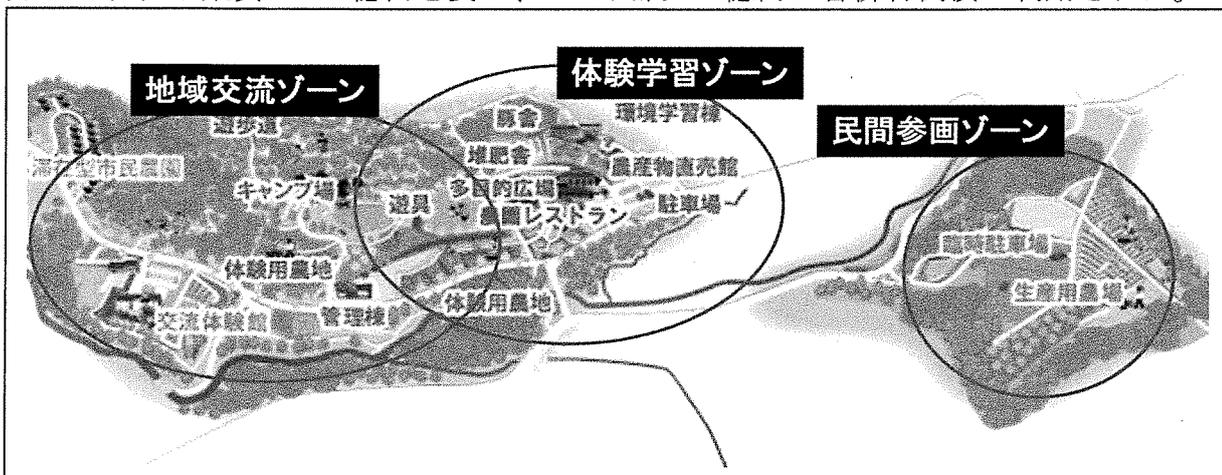


(所感)

令和2年2月13日 10:00～ 鹿児島市観光農業公園（グリーンファーム）

鹿児島駅より普通列車で1時間ほど、鹿児島市の南端に位置する喜入にある鹿児島市観光農業公園、グリーンファームで、観光交流局観光交流部グリーンツーリズム推進課 紫垣真充 主任より話を聞いた。

〈概要〉 鹿児島市は、平成16年に周辺の5町と合併した。従来の都市部の住民の中に「安らぎ」や「いやし」を求めて農村を訪れたい人や、農作業体験を希望する人など多様なニーズへの関心が高まった。このような状況の中で、農村地域の自然や農畜産物などの資源を活用して、農業や農村地域の活性化を図り、循環型農業による環境への関心を高め、観光の振興に資するために平成18年に基本計画を策定し、平成24年に供用が開始された。約41.3haの広大な敷地面積を有し、「地域交流ゾーン」、「体験学習ゾーン」、「民間参画ゾーン」の3つのフィールドに区分され、総事業費は36億円を要し、この内約31億円が合併特例債が利用された。



グリーンファームの概要

平成31年度の予算ベースで、体験料や農園使用料、キャンプ場使用料など約2000万円の収入に対して、人件費6,300万円、維持管理費6,800万円など総額で、約1億8000万円の支出が見込まれている。出雲市の様に指定管理で施設を運用するのではなく、施設は市直営で管理・運営されており、臨時職員も含めた17名は全て市職員である。

〈体験内容〉 来園者に対して多様な体験や学習を提供しており、そのプログラムは教育的な内容を含んでおり、小学生の団体が遠足などで利用される機会が多いようである。来園者の目的や日程に合わせて、自由に組み合わせることができ、「植える」から「収穫する」までの農作業を体験できる。ビニールハウスも用意されているので、雨天時の体験も可能である。また、豚10頭を飼育しており、レストランの残差を飼料化したり、排せつ物を堆肥化したりするなど循環型農業の学習も可能である。農業以外でも、自然・里山体験や調理体験、バンガロー、テント、簡易宿泊所（ラウベ）なども用意されており、観光を目的としても利用できる。

農作物等は、限られた人数の専門職員で季節を通じて農業体験ができる様に管理されており、施設もきれいに掃除されていた。公園の年間利用者は、190,600人、体験学習は40,943人(114人/日)であり、良好な運営が行われていると言える。

3月13日 9:30 ～ 熊本大学医学部附属病院

医療技術部 羽手村昌宏副部長から、災害時の病院の様子とその後の対応についてお話を聞いた。熊本市は、平成28年4月に二度にわたる地震に見舞われ、甚大な被害を受けながらも混乱の中で、被害にあって診療が困難となった他院からの患者の転院も受け入れた。

国内には2,000以上の活断層があると言われており、どの地域でも地震の災害から逃れることは出来ない。特に病院などは、自らの復旧ばかりでなく、入院している患者や災害を受けて来院する患者の診療も継続する必要がある。災害時に備えて様々な情報を得ておくことは有用である。地域の中心的な病院として、ライフラインの確保と病院機能の復旧、救急搬送患者の診療、他の医療機関からの透析患者等の受け入れ、さらに被災した医療機関の支援など沢山の課題を抱えて運営されたことが分かる。

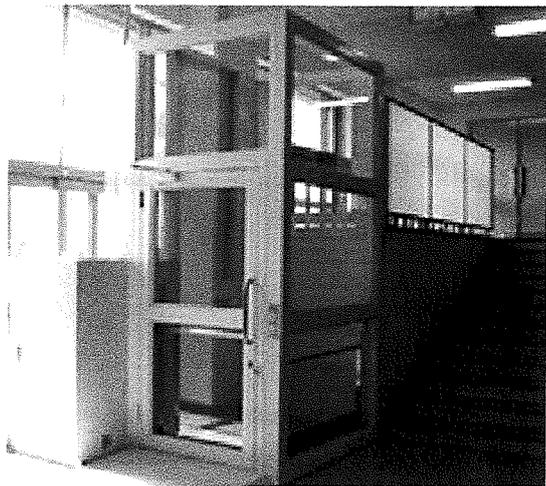
〈対策本部〉 最初の地震が発生して30分度には、災害対策本部が設置され、さらに30分後の22時30分にはトリアージの体制が整えられていた。夜であったにも関わらず、幸いにして停電が無く、ライフラインも保たれていた。翌日の深夜に発生した本震では、断水の他に90分近い停電があったが自家発電が起動したことで被害は最小にすることができた。現在の医療において、患者の救命を行う上で、電気は最も重要となる。生命維持装置ばかりでなく、診療録さえ電子的に保存されており、コンピュータ等の電子機器の無停電化は必要不可欠である。

〈建物〉 熊本大学病院では、近年に建設された中央診療棟や病棟は免震構造であったが、外来診療棟は従来の耐震の建設であった。我々が話を聞いた副部長が所属する医療技術部は、中央診療棟に配置されており、本震の後でも診療機器や棚、書類なども地震に起因した移動などはほとんど認められなかったとの説明を受けた。机の上に高く積んであった書類や本も崩れることは無く、棚などの倒壊も皆無であった。一方、外来診療棟は、柱にせん断破壊が生じ、応急危険度判定において危険建物となった。中央病歴室では、本震の後に保管していた2万冊の診療録（カルテ）が落下し、近隣の水道管が破裂したことで水浸しとなった。カルテの文字や図の消滅、破損などが生じ、原状へ戻すことが困難な事例も発生した。免震構造の中央診療棟は、それ自体は前述したように被害は少なかったが、建物自体が大きく揺れて地震の揺れをかわすために、しっかりと頑丈に建築された耐震建物との間で、配管や床などそれらを連続的につないでいた構造が破壊された。これらが考えられる場所（部分）には、フレキシブルな素材や設計での構造が望まれる。



つなぎ目の破損

〈診療体制構築〉 地震発生後の受け入れ患者の増大により、診療に必要な物資が不足した。医薬品や医療材料などの消耗品は、取扱業者の優先納入により確保できた。一方、輸液ポンプやシリンジポンプ、人工透析器、人工呼吸器などME機器は、業者と規格などの調整を行い、期限付きのレンタルで対応した。利用している機器の規格棟は把握して、リストアップしておく必要を感じた。また、九州大学病院が窓口となり、近隣の大学病院から、復旧の遅れた飲料水を中心に患者給食関連の食材と職員用の非常食の支援を受けることができた。



ステップリフト設置例

政府はバリアフリー法を改正し、障害者などが利用しやすい臨定制度を創設する準備を進めている。出雲市でも、トイレや低い段差のユニバーサル化は行われているが、エレベータを必要とするような段差には、消防法や耐震構造などの課題が多く、全く手つかずの状態であると言っても過言ではない。障害者用に開発されたステップリフトが設置されている建物を福岡で視察した。

〈ステップリフト〉 中央エレベータ工業(株)九州支店 高岡瑞生係長から説明を受けた。

電動の油圧式リフトで4mの段差まで、2名が乗車して昇降が可能である。消防法の関係で、上階まで吹き抜けの様な構造が必要であるが、カゴが内蔵された箱型のリフトを設置するだけで、ビットなどの工事を必要としない。外枠と一体設計のため、利用者に不安を感じさせない。ドアは一般のエレベータの様に自動開閉では無いが、内部にインターロック機構が装備されており、リフトの昇降位置により開閉が制御されている。安全のために昇降のスピードは抑制されているが、積載重量は240kgまで可能であり、車イスに乗ったまま付き添いの人と一緒に乗れる程度のカゴ寸法は確保されている。

## 所感

### ・鹿児島市観光農業公園 (グリーンファーム)

出雲市では、“いりすの丘”の再生計画の参考として視察をおこないました。今後、出雲市の農業の発展や農業の担い手不足を啓蒙するための体験施設などに活用する場合は、市として多額の支出もやむを得ないことである。イリスの丘については、あり方をどうするのか議論する必要を感じた。

### ・熊本大学医学部附属病院

震災時の病院の体制や他の病院との連携などの重要性が理解できました。また、大きな地震でも、近年の免震構造の建物であれば、内部の損傷はほとんど無いことが分かりました。

今後、出雲市での災害時の医療体制のあり方の参考にしたいと考えます。

### ・段差解消機 ステップリフト

古い建築物に通常のエレベータを設置するには建物の大幅な改修が必要であり多額の経費がかかるが、この製品(ステップリフト)を利用すると4mまでであれば、後付で比較的安価にエレベータと同等の機能が得られることがわかった。出雲市内のコミセンなどで、2階に障がい者や高齢者があがる必要がある施設は、設置が通常に比べ簡単であり経費のことも含め、この方式が良いと考えます。